

第三者評価結果

A-1 保育内容

		第三者評価結果
A-1-(1) 保育課程の編成		
【A1】	A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	b
<p><コメント></p> <p>全体的な計画は園長が作っており、年度の初めには出来上がっています。前年度の評価と反省に、園の特徴や取り巻く環境、地域の特性を考慮して作っています。</p> <p>全体的な計画は、園が大切にしている保育理念「豊かに『生きる力』を育てる」に沿って、保育目標「意欲や好奇心が夢につながる子ども、積極的に挑戦、最後まであきらめない子ども、思いやりを持って行動できる子ども」の達成をめざしています。保育の方針は「①やってみたいが、やってみようになる保育、②子どもの気持ちに共感し、保育士も共に成長できる保育」です。今後は、全体的な計画の作成時点から職員が関わることが望まれます。</p>		
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b
<p><コメント></p> <p>子どもたちの成長に合わせて快適に過ごせるよう保育室の環境整備に取り組んでいます。子どもたちが、好きな遊びにじっくり取り組めるようにコーナーを充実させています。保育室は窓が大きく明るい部屋で、職員手作りの玩具を揃えています。</p> <p>全体に色彩や感触など、五感を刺激することにも力を入れています。職員は、子どもが自ら伸びる力を大切にしたいと考え、年齢に合った環境の中で、沢山遊んで欲しいと考えています。各保育室は子どもの制作作品や季節の掲示物で飾っています。一つの大きなフロアを可動式の棚で仕切っているため、室内が雑然としがちですが、子どもが集中を欠くことが無いように、担任が話し合って保育室の使いかたを工夫しています。この部分は、常に気を抜かずに取り組もうと考えています。洗面とトイレは清潔を保つために、職員が当番表を作って清掃に当たっており、子どもたちは年齢が上がると共に扉のあるトイレを使用しています。</p>		
【A3】	A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>子どもの成育歴や、家庭での様子を把握し、子ども一人ひとりの個性を尊重し、特性を理解した上で、職員は子どもに合った声掛けをしています。年齢や文化の違う子どもたちがお互いの違いを認め合い、共に成長できるようにしています。</p> <p>入園直後に無理なく園に馴染めるように、一人ひとりの子どもに合った導入保育を行い、乳児では子どもの欲求をしっかりと受け止め、園が安心できる場所であることを感じ取ってもらえるようにしています。職員の言葉づかいでは、「〇〇してはダメ」と言いたい場合でも、「お約束を覚えているかな」と話すなど、否定する単語を使わないように申し合わせています。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>家庭と連携しながら無理なく基本的な生活習慣が身につくように援助しています。トイレトレーニングの開始は、一定の排尿間隔が取れ、嫌がらずに便座に座れる時期を目安にしています。年上の子どもを見てパンツに興味を持つこともあり、異年齢の子どもと一緒に過ごす環境では、衣類の着脱や箸での食事に、自分でもやってみたいと思う気持ちが引き出されています。</p> <p>離乳食は家庭で食べた食材を園でも提供できるようにし、離乳初期から後期、幼児食まで細かく配慮しています。手洗いやうがいは年齢に応じた方法で上手に促しています。いずれも、子どもの発達状況や個人差に配慮し、褒めながら自分でやろうとする気持ちを大切にしています。その日の活動に基づいた細かい配慮のもと適切な休息をとれるようにしており、午睡は子ども一人ひとりの生活リズムや年齢、活動内容によって柔軟に対応しています。</p>		
【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
<p><コメント></p> <p>日々の保育は、職員が子どもの興味や関心欲求を見極め、見通しを立てて臨んでいます。バランスの取れた計画を立案しており、様々な年齢の子どもとの交流や、自然に触れて思い切り遊ぶ活動を盛り込み、楽しい園生活になるようにしています。様々なことに積極的に関り、自信をもって発表して友だちから拍手を貰う誇らしい体験なども子どもにとって貴重な体験となっています。</p> <p>幼児は毎週英会話教室に参加し歌やゲームを通じて英語に親しんでいます。園は積極的に戸外に出て体を動かすことを目標に散歩に出かけており、公園で豊かな自然に触れ、季節を感じ、落ち葉や木の実を集め、昆虫にも出会い、草花や自然を大切にする心を学んでいます。安全に配慮したルール等は職員が手本を見せ、道の歩き方や信号や横断歩道を渡る時の注意事項なども正確に覚えています。消防署を訪問したり、ハロウィンではお菓子を貰いに前もってお願いしておいた商店を訪ねました。</p>		
【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>0歳児は、職員がたっぷりのスキンシップで愛情豊かに接しており、信頼を感じ取ってもらえるようにしています。職員手作りのパーティションで仕切り、ハイハイやつかまり立ち、ヨチヨチ歩きの子どもの安全にも十分配慮しています。可愛いイラストの掲示物や、ウォールポケット、温かみのある壁面装飾で保育室を飾っています。マラカスやぬいぐるみ、音の出る玩具、触って気持ちのいい物、色彩豊かな物、動く物や音の出る物を用意し、五感を刺激して感性を養っています。</p> <p>子どもの発達段階に応じた環境設定については、複数担任の職員がクラス会議で検討しており、園長やリーダー職がアドバイスしています。月齢によって生活リズムが大きく違う0歳児が、安心して過ごせる環境づくりが何より大切であるとの共通認識もっています。</p>		
【A7】	A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳児未満の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>0歳から在園の子どもと、4月に1歳児として入園した子どもは、当初別クラスで対応しており、1歳児クラスが2組あります。各クラスにはコーナーが設定されており、様々な素材や玩具を置いて、子どもが自由に遊べるようにしています。職員は子どもたちが心身ともにのびのびと表現活動ができるように配慮し、子どもが集中して何かに取り組んでいるときは静かに見守り、そっと静かに声をかけ、遊びが発展するようにしています。クレヨン、色紙、粘土などたくさんの素材を用意しています。天候の良くない日や散歩に行かない日は、保育室にマットや鉄棒、滑り台などを組み立てて、体を動かしたりピアノに合わせて走ったり跳ねたり、活動的に過ごしています。誘い合って遊ぶごっこ遊びも大好きです。絵本を手に届くところに置き、職員が読み聞かせのリクエストに答えています。</p>		

【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>3歳以上児では、子どもの興味や体験の幅を広げることができるような体験を増やしています。ピアノのリズムに合わせて全身で表現したり、英語遊びで楽しんだり、子どもたちは豊かな感性を身に着けています。天気の良い日は積極的に戸外に出て体を動かす活動が多く、体力もつき、散歩先の公園では好みの公園遊具でおもいきり遊んでいます。</p> <p>公園で集めた落ち葉や木の実を持ち帰り制作に使ったり、図鑑で調べたりしています。職員の関りで、子どもは言葉で気持ちを伝えることを学び、友達との関係でも、お互いを尊重する心が育っています。集団に入れない子どもには無理強いせず、職員が子どもの性格を捉えて上手に誘っています。</p> <p>4歳児、5歳児になると、リズム遊びや歌、合奏も得意となり、きれいな声で歌い、きれいな音に触れると気持ちがいいと感じ取れるようになっていきます。絵具や、空き箱工作も更に独創性を増し、皆で協力して大きな作品を作っています。</p>		
【A9】	A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>現在障害のある子どもは在籍していませんが、在籍の場合は個別指導計画を立て、他の子どもとの関係に配慮しながら、共に成長できるようにすることを申し合わせています。障害のある子どもへの配慮については、本社の発達支援巡回として臨床心理士が園を訪問し、経過の共有と配慮についてのアドバイスを受けることができる環境となっており、専門機関との連携や、適切な支援の継続に向けて取り組むことができる体制があります。</p> <p>保護者の相談にも応じており、発達面で気にかかることがある子どもには、時間をかけて見守り、丁寧に記録を取るようにすると共に、職員が情報を共有しています。支援にばらつきが生じて子どもや保護者に混乱が起きないようにしています。</p>		
【A10】	A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
<p><コメント></p> <p>朝8時30分から18時30分までの保育に加え7時から8時30分の朝の時間帯と、18時30分から20時までの延長利用が可能となっています。子どもは長時間保育園で過ごしていますので、園は子どもの心身の負担を軽減したいと考え環境を整え、きめ細かい配慮をしています。</p> <p>延長保育の時間帯は、人数によって段階的に合同保育となり、年齢の違う子どもたちが集まって過ごしています。その際は、異年齢の子どもたちの発達の違いによる危険がないように配慮しています。その日の子どもの状態に考慮しながら、主体性を持たせた活動を主に過ごしています。担任が延長保育担当者に必要事項を「健康観察記録」に記入して申し送り、伝達ファイルも活用し、口頭でも伝えて連絡漏れがないようにしています。</p>		
【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b
<p><コメント></p> <p>通常、5歳児の保護者会では、小学校入学までに達成課題を伝え、就学に向けた取り組みを説明しています。今年は感染症予防のため、保護者会を開催できず、文章で知らせました。小学校に出向いての交流も、今年はありませんでした。</p> <p>当園の5歳児については、指導計画のもと、グループ活動などで自分で考え行動できるようになっており、変化のある園生活から意欲が育つような働きかけで、就学に向けて期待を持って過ごせるようにしています。子どもたちそれぞれが入学する予定の小学校に、保育所児童保育要録を作成し、郵送しています。保育所児童保育要録は日頃の保育に関わっている担任が記入し、園長が確認して完成させています。</p>		

A-1-(3) 健康管理		
【A12】	A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>法人本部作成の保健計画に沿って園独自の保健マニュアルがあり、それに沿って子どもの健康状態を把握しています。入園時の面談や保護者会、送迎時の会話などから家での子どもの健康状態を聞いています。登園時には検温し、特記事項や申し送りは「健康観察記録」に記入しています。子どもの健康に関する情報、成育歴や既往症、予防接種記録、主治医名などを児童票ファイルに集約し、職員が確認しやすくしています。子どものケガや急病の際は保護者に連絡すると共に、応急処置をして、救急車の手段を講じたり、嘱託医と相談するなどして、速やかに判断し、医療に繋げる体制ができています。乳幼児突然死症候群(SIDS)についても入園時に保護者に説明しています。</p>		
【A13】	A-1-(3)-② 健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a
<p><コメント></p> <p>0歳児は月1回、全園児について年2回健康診断を行い、その内容を保護者に知らせています。健康診断の結果再診が必要となった場合等では、書面だけでなく直接口頭で保護者に話しています。ウェブ版連絡帳で、健康診断結果を個別配信しています。年2回の歯科検診と歯磨き指導も実施しています。</p>		
【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>食物アレルギーの有無や種類は入園時の面接で確認し把握しています。その後もアレルギー面談を重ね、丁寧な対応をしています。アレルギーガイドラインと対応マニュアルを完備しており、本社主催の研修テーマに「食物アレルギー」取り上げ、職員が知識や適切な対応を学ぶ機会を作っています。</p> <p>一人ひとりの子どもについて対応マニュアルを一覧にして掲示し、職員が共有しています。担任は除去食品をチェックし、給食室では調理方法等を、保育室では配膳に間違いがないか確認することを徹底しています。席やトレイを別にして誤配膳、誤食を防いでいます。日光など、食物以外のアレルギーや子どもの慢性疾患についても申し出によって保護者と相談のもと十分な配慮をしています。</p>		
A-1-(4) 食事		
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫している。	b
<p><コメント></p> <p>子どもの成長に合った椅子とテーブルを用意し、椀や皿、スプーンや箸も年齢に合わせた物を使用しています。お代わりの用意もあり、毎食デザートがついています。一人ひとりの食事を把握し、楽しく食べることができるように職員が声掛けしています。子どもの発達に合わせて、食材の大きさや形に工夫を加えています。指導計画に食育の欄を設けています。</p> <p>小さい子どもはトウモロコシの皮むきなど、旬の食材に触れ、重さを実感し匂いをかいで、食の楽しさを感じることができるようにし、幼児クラスでは配膳や献立読み上げ、当番活動、調理器具を使う、収穫したサツマイモやトマトなどの野菜を給食で食するなど、食に関する知識を得て積極的な気持ちになるように働きかけています。今後は更に工夫を加えていきたいと考えており、食育年間計画を作成しての取り組みが期待されます。</p>		
【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
<p><コメント></p> <p>旬の食材を使用した献立は、子どもたちの嗜好に合ったバランスの良いものになっています。季節の新鮮な食材を使い、適温配食にも努めています。</p> <p>魚や肉をおいしく調理し、野菜を多く摂取してほしいと考え、苦手な食材を分からないように調理して食べてもらうなど、調理方法に栄養士が工夫を加えています。1か月の献立を2サイクルメニューで実施しており、2回目に登場するメニューに、味付けや大きさ、カットの仕方などの細かい部分に変化や工夫を加えることが可能です。検食日誌の記述を参考に、職員と栄養士等給食担当者が連携しています。</p> <p>日本の伝統行事の由来を職員が話して聞かせた後に、皆で行事に因んだ給食を食べることもあります。栄養士は保育室を回り喫食状況を確認しており、直接子どもから給食の感想を聞いています。</p>		

A-2 子育て支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 家庭との緊密な連携		
【A17】	A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>ウェブ連絡帳を活用し、日常の活動を保護者に速やかに知らせています。保護者は降園時の迎えに来る道すがら、子どもの今日の活動や連絡事項を確認しています。災害発生時や緊急時の子どもの安全を保護者に速やかに連絡する体制も整えています。保護者代表を含む運営委員会を開催し、園での保育の取り組み等を話して理解を求めています。</p> <p>運営委員会は保護者の意見を集める場ともなっており、園は保護者の意見・要望・提案を歓迎しています。保護者参加の行事は、開催日を土曜にするなど、保護者の参加しやすい日に実施するようにし、年間計画を年度の初めに前もって渡して、準備をお願いしています。行事後はアンケートの記入で感想を集め、集計結果を次回の企画に活かしています。今年は感染症予防のため、保護者会、懇談会を中止して連絡事項は配布で伝えましたので、今後の情報提供について対策を練っています。</p>		
A-2-(2) 保護者等の支援		
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>保護者が安心して子育てができるように、保護者の勤務事情等による延長保育では柔軟な対応をしています。急な残業や交通機関の乱れによるお迎えの遅れにも、連絡を貰い対応しています。園長はじめ職員は、保護者と子どもの家庭での姿を把握し、背景を考えながら個別の配慮をしており、いつでも気軽に相談してもらえるようにしています。</p> <p>相談記録については、園長が手帳に記録し、メモを作って周知したり、申し送りノートに記載して職員が共有しており、苦情の場合は所定用紙で保護者対応のファイルに綴じ、一部は「ご意見ご要望報告書」や経過記録に取って児童票に綴じています。これらの相談記録が統一されていないので、どのような記録がその後の運営に活用できるかを考え、整える必要があると思われます。</p>		
【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>現在、虐待等権利侵害の案件はありません。法人が実施した研修に参加した職員が、学んできた知識や情報を伝達研修して共有しています。法人本部の担当者に相談する体制もあります。園長とリーダー職員が連携を取って保護者支援に取り組んでいます。</p> <p>職員は、個人面談や送迎時の保護者との会話を大切に受け止めており、困ったらずぐに相談してほしいと考えています。発見時の対応については、フォロー図で示したマニュアルがありますので、今後は、園内研修でも取り上げ理解を深めていきたいと思いますと考えています。</p>		

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果
A-3-(1) 保育実践の振り返り(保育士等の自己評価)		
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b
<p><コメント></p> <p>経験や職層に応じた法人本部のキャリアアップ研修があり、行政や関連団体の研修にも職員が参加しています。職員が自身の目標に沿って自己評価する機会を設けており、園長が面談をしています。園長は職員が自身の得意な部分を伸ばしながら保育に臨んで欲しいと考えており、各クラスの保育を把握しています。</p> <p>職員がそれぞれ担当する係活動に参加して積極的に取り組んだり、人間関係を築く様子についても把握しています。そのうえで、個人面談では様々なアドバイスをしています。保育士としての専門性の向上や、働きやすい職場づくりに向けて継続して取り組んでいきたいと考えており、その思いを職員に伝えています。</p> <p>今年度から毎週火曜日の昼にリーダー会議を開催しており、機能し始めたことにより園運営がスムーズになりましたので、今後は期待できます。</p>		